

西条自民
クラブ
代表質問



藤井 武彦
議員

どのように取り戻す？

市役所の挑戦する文化

問

市長が考える市役所の「挑戦する文化」とは具体的にどのような姿なのか。

また「失敗の許容」を人事評価や組織運営に根付かせ、職員の挑戦を支える組織体制を構築するために、どのような具体策を考えているのか。

答

「挑戦する文化」とは、職員が前例にとらわれずに課題の本質を捉え、市民のために主体的に行動できる市役所の姿である。この実現に向け、まずは重点課題を明確にし、部局横断で連携して解決を図るため、しくみを整えることが重要であり、時代の流れに即した組織機構の在り方を検討したい。

また、職員一人一人とフラットに對話し、風通しの良い職場環境を築くことで、部局の枠を超えた政策立案を促進したい。

更に、挑戦する文化を根付かせていくためには、心理的安全性の高い職場環境づくりが不可欠であり、職員の挑戦を後押しする組織文化の醸成を目指し、人材育成とチームづくりを進めたい。

挑戦する文化は失敗を許容する文化から生まれることから、職員が市民のために挑戦した結果の失敗を個人の責任とせず、そこからなにを学び、次にどう生かすかを組織全体で共有することが重要である。挑戦した姿勢や過程を正當に評価し、失敗を責めない組織とするために、市長みずからもその責任を負うとともに、職員の常に挑戦する姿勢を評価・応援したい。特に、若手・中堅職員には、仕事の先にある市民の喜ぶ顔を想像し、自由な発想で仕事に取り組んでもらうためにも、職員一人一人の挑戦をしつかりと受け止め、支え、応援しながら「挑戦する文化」が根付く市役所を作っていきたい。

市民の命と暮らしを守る

生活基盤の整備にどう取り組む？

問

生活インフラ重点整備緊急パッケージは、市民が日々の暮らしの中で感じる困り事に正面から応えるものであると受け止めるが、具体的な事業内容及び既存事業との優先順位をどのように考えているのか。

また、従来の政治判断とどう異なるのか。

答

生活インフラ重点整備緊急パッケージは、向こう3年間で地域住民の身近な困り事を解消することを目的に、生活道路・通学路の重点整備、学校・子育て施設の安心快適化、防災・減災の重点整備の3点を重点的に推進するものである。

まず、生活道路・通学路の重点整備では、

離合が困難な狹隘道路の拡幅、舗装が傷んで危ない箇所や通学路のカラー舗装の補修などを中心に実施するもので、これまで未着手であった生活道路の改良や補修工事も前倒しで着手するなど、整備や補修を加速させ、地域住民に身近な生活道路の安全・安心を確保するものである。

次に、学校・子育て施設の安心快適化では、公共施設の老朽化による維持管理コストが本市財政を圧迫する一方で、子どもたちの安全と多様な学びを保障するための学習環境の整備が喫緊の課題となっている。特に、学校体育館の空調設備は、近年の酷暑や災害の激甚化・頻発化を踏まえ、国も交付金や起債の期間延長で整備を支援していることから、近隣市でも整備を進めているため、他自治体の実施状況を参考に、財政負担を抑えつつ効果的な空調方式の選定や財源確保を検討し、学校施設の大規模改修と併せて整備を進めたい。

これらのインフラに関する整備は、緊急度が高いものと認識しており、生活道路・通学路に関する予算は優先順位の高いものを選定し、早急に予算化に向けた検討を進めるとともに、学校体育館の空調については、本年度中に整備方針を定めることを目指し、庁内の関連部署で横断的に調査・検討を進め、市民の身近な課題を包括的に解決するために、重点的に整備を行いたい。



カラー舗装された通学路